

平成30年6月1日法定協 意見表明

自民党の花谷です

本動議の採決に先立ち、私たち会派の意見を表明させていただきます。

知事・市長はじめ大阪維新の会の皆さんが、今年秋の住民投票実施を断念されたとの報道がありました。

我々自民党は、法定協議会の日程を先延ばししたことも、審議を妨害したこともありません。それどころか、私の個人的なことを申し上げますと、強引に法定協議会の日程を決められたことにより、日程調整が難しい予定を二度もキャンセルしてまで出席しています。

今年の9月か10月に住民投票をすると断言していたのは知事市長で、それに向けて、法定協議会の日程や協議内容を調整していたのも、知事市長と法定協議会の会長です。

すべて自分たちの思い通りに進めてきたにもかかわらず、今の段階では十分に議論を尽くしたとはいえないなどとして、目指してきた期日を延期するというのは、おかしい話です。正直に、住民の支持を得られそうにないから、都構想を断念すると発表すべきです。断念して法定協議会を廃止して、大阪万博の実現に集中すべきです。

私達は、本動議の中で、大阪市の廃止・分割を主張するのであれば、市長が大阪市への万博誘致を呼びかけるというのは自己矛盾だと指摘しました。

これに対し、吉村市長は、大学改革や府市両研究所の統合などを例に挙げ、自己矛盾ではないと述べておられましたが、大学改革や研究所の統合は、我々の主張通り大阪市の廃止せずとも成し遂げられる改革であり、我々も協力したから実現したのです。大阪市の廃止せずともできる改革と、大阪市の廃止することを同じだと発言されたことに驚いています。市長の言われることは全く的外れと言うしかありません。

また、知事・市長は本動議が本協議会の議論の妨害や先延ばしであるかのような主張をされているようですが、最近の世論調査において、特別区の設置に反対の市民が多い中で、党利党略で住民投票を先送りし、議論の引き延ばしを図っているのは知事・市長の側です。

現に前回の協議会でも公明党さん、共産党さんの質疑を終えてか

ら採決をして頂きたいと申し入れたところ、公明党さんも共産党さんも、それに了承する中、質疑を打ち切る動議を提出したのは吉村市長であり、公明党さんと共産党さんの質疑の機会を奪い、法定協議会の先延しを提案したのは市長です。自分たちのしたことを自民党のせいにするのは卑怯ですし、その知事市長のコメントを垂れ流す報道姿勢も残念でなりません。

最後に、吉村市長は、本協議会の廃止について、知事・市長でないと本協議会を廃止できないことから、今回我々が提出した動議が、自民党のパフォーマンスに過ぎないとおっしゃっているようですが、いま一度お手元の我々の動議をご確認ください。

本動議は、協議会での議論を打ち切ることにについて採決をし、協議会の規約上「協議会を代表する」とされる会長から、知事、市長に協議会の廃止を行うよう申し入れることを求める動議であり、知事・市長でないと本協議会廃止の提案をできないことは承知の上です。

この市長のパフォーマンスなる発言も法定協議会での発言でなく、終了後の一方的なコメントであるにもかかわらず、そのまま垂れ流す報道姿勢にも残念でなりません。

会長におかれては、協議会での議論を打ち切ることに賛成の採決がなされたあかつきには、速やかに知事、市長に協議会の廃止を申し入れて頂きますようお願いいたします。

以上、申し述べましたが、

委員各位におかれましては、御了承のほどよろしくようお願い申し上げます、私たち会派の意見表明とさせていただきます。

なお、採決後に新たな動議を提出致しますので、私達の発言の機会を奪わないよう、会長をお願い致します。

御清聴ありがとうございました。